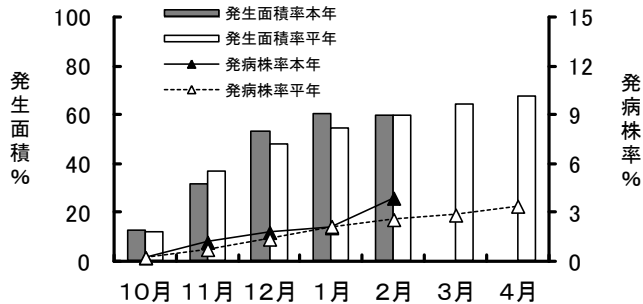


平成26年3月5日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月) 野菜類ダイジェスト版

● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

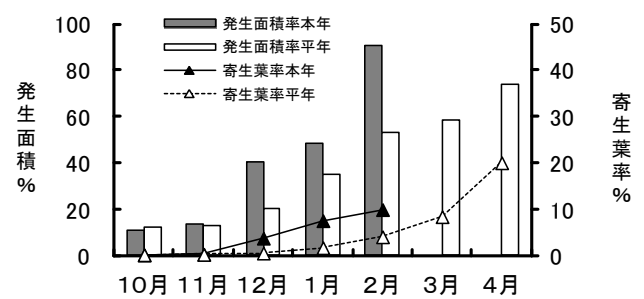
黄化えそ病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)における黄化えそ病の発生推移

黄化えそ病は平年並の発生となっています。今後は気温も上昇し、媒介虫のミナミキイロアザミウマの増加が懸念されます。発病株は伝染源となることから、できるだけ除去し、ミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。

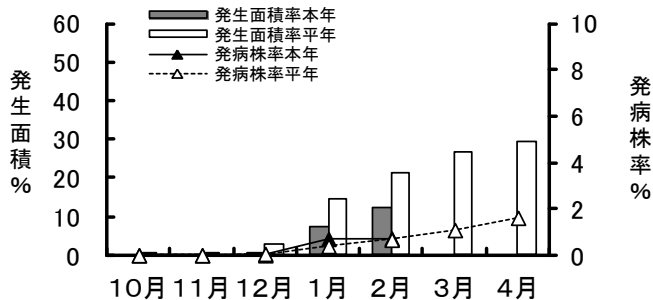
ミナミキイロアザミウマ 発生量: やや多



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

ミナミキイロアザミウマは、やや多発生となっています。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難となることから、初期防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

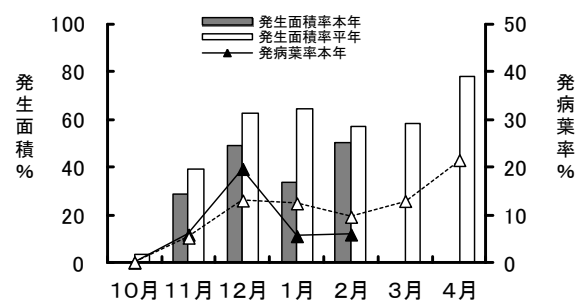
つる枯病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるつる枯病の発生推移

つる枯病は、全体的に少発生となっていますが、県中西部でやや多発生となっています。ほ場によっては発生の拡大が懸念されますので、早期発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

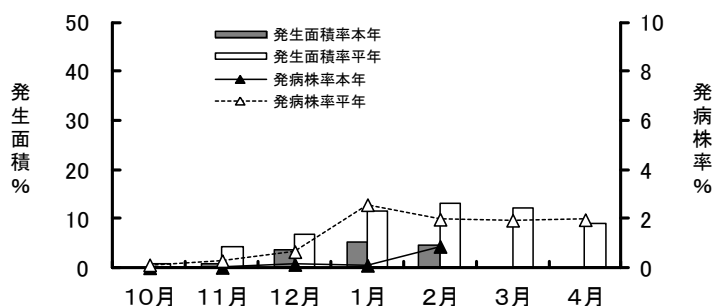
べと病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるべと病の発生推移

べと病は平年並の発生となっています。本病は、蔓延すると薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

褐斑病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)における褐斑病の発生推移

褐斑病は全体的に少発生となっています。

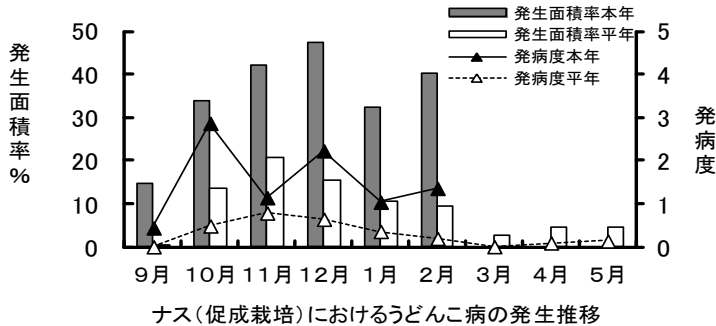
向こう1ヶ月の天候予報では、晴れの日が多く、気温は高いと見込まれています。今年度は発生が少なく、今後急激に伸展する可能性は少ないと思われますが、本病は、蔓延後の薬剤散布による防除が困難となりますので、発見した場合は、できるだけ早めに防除に取り組んでください。

平成26年3月5日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月) 野菜類ダイジェスト版

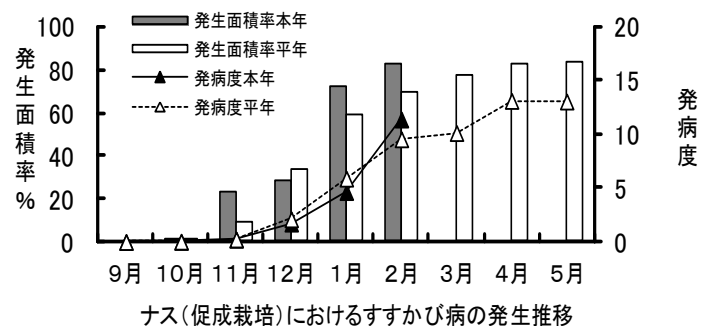
● 促成ナス(東部・中央部・西部)

うどんこ病 発生量:多



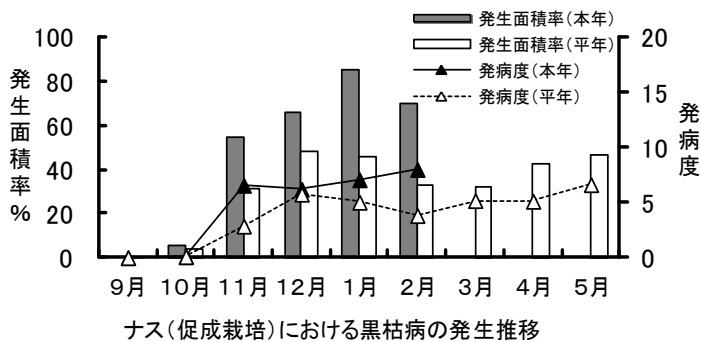
先月から発生が増加し、県全域で多発生となっています。しかし、発病の程度は低く、ほとんどが少発生です。今後の気象がやや低温気味で、晴天が続くと予想されていることから、病勢の進展に注意し、早期に防除を行ってください。

すすかび病 発生量:平年並



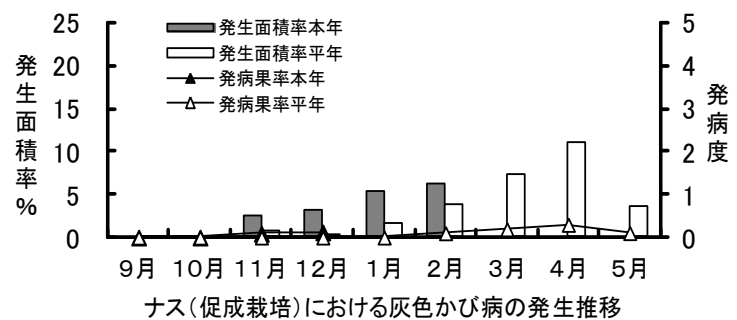
県中央部でやや多めの発生ですが県全域では平年並の発生です。今後の気象予想から発病を助長する要因は少ないですが、無加温栽培などでは蒸し込みによる換気不足も懸念されますので、病勢の進展には十分ご注意ください。

黒枯病 発生量:多



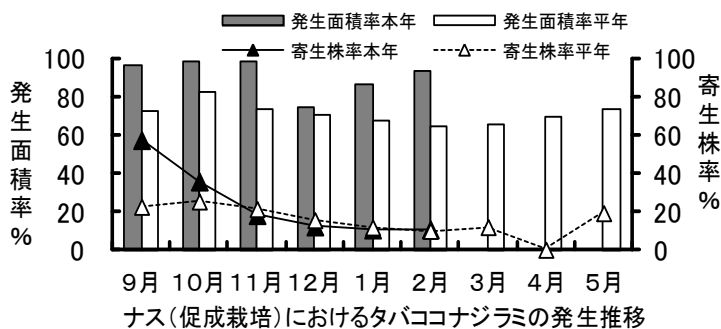
県東部で発生が多く、全般に平年より多発生です。今後の気象予想では、気温が低い状態が続く、晴天日が多くなるとの予想で、発病を助長する気象要因は少ないですが、すすかび病同様に、今後の病勢の進展に注意してください。

灰色かび病 発生量:やや多



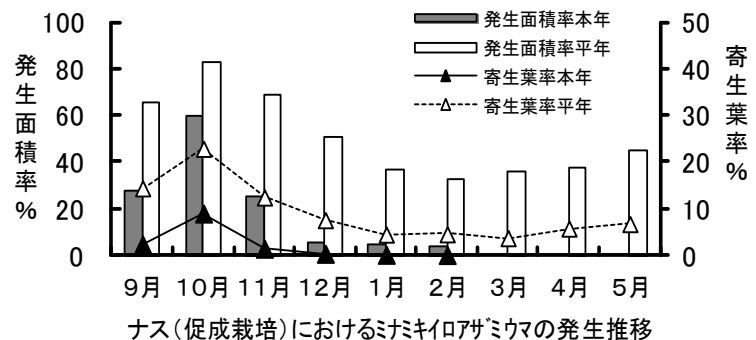
県東部、中央部で程度は低いものの、多発生となっています。今後は低温傾向で、晴天が多くなるとの予想から、発病を助長する要因は少ないとは思いますが、無加温栽培などで蒸し込み気味の管理にならないように注意しましょう。

タバコナジラミ 発生量:やや多



県東部で多発生で、全体では平年並の発生です。成虫がわずかに見える程の発生ですが、増殖が早いので、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除により密度上昇に気を付けてください。

ミナミキイロアザミウマ 発生量:少



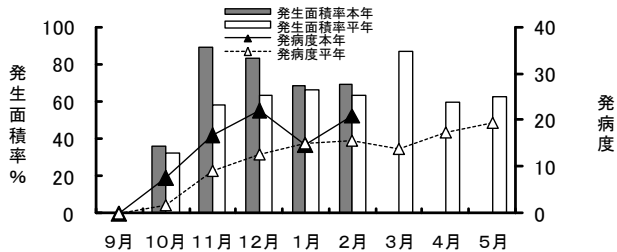
県全域で発生が少ない状態です。今後も、急激な密度の増加はないと思いますが、発生をよく観察し初期防除に努めてください。天敵導入ハウスでは薬剤の選定に留意してください。

平成26年3月5日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン・シシトウ(東部・中央部・中西部)

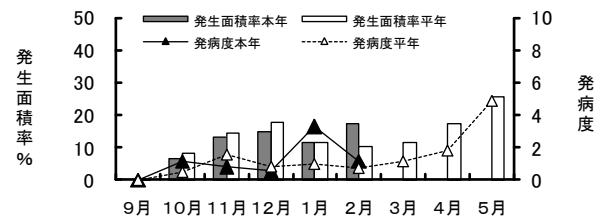
うどんこ病 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

全般的に平年並の発生となっています。向こう1ヶ月予報では気温はやや低く、日照時間はやや少ないと予想されており、発生はやや増加すると予想されます。硫黄くん煙器を設置している場合は、状況に応じて稼働時間を調節しましょう。

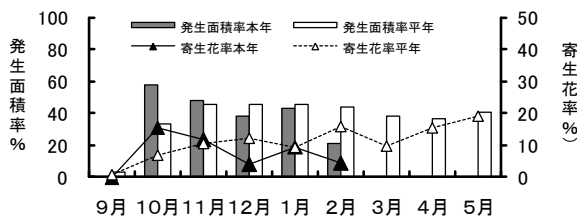
黒枯病 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

県東部と中西部では平年以下の発生ですが、県中央部では多発生となっています。また斑点病は全域で多発傾向となっています。蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。なお、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。

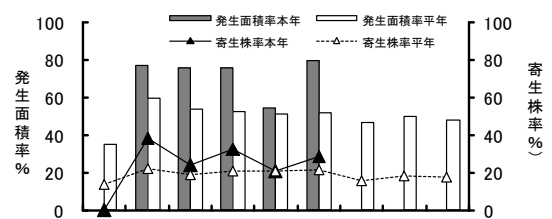
ミナキイロアザミウマ 発生量: 平年並



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるミナキイロアザミウマの発生推移

天敵の定着により、発生は落ち着いているハウスが多いですが、日差しが強くなるに従って、急に寄生密度が高くなりやすいので、天敵の状況と合わせて注意してください。薬剤散布を行う場合には、剤のローテーションおよび天敵への影響を十分考慮して使用薬剤を選定してください。

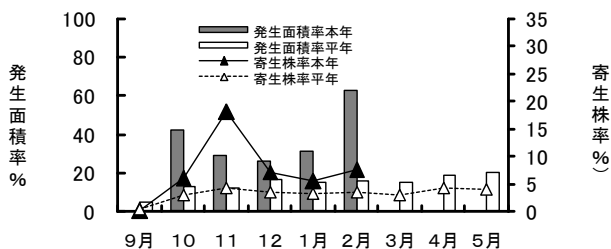
タバコナジラミ 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるタバコナジラミの発生推移

全般的にやや多発生となっています。スワルスキーカブリダニが定着しているハウスでは、コナジラミの成虫が低密度で見られるくらいなら、問題とならない程度と考えられます。薬剤防除を行う場合には、天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

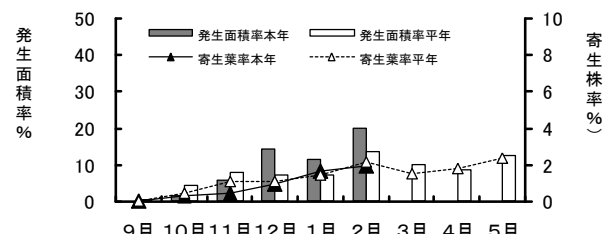
アブラムシ類 発生量: やや多



ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

東部での発生が多く、全体でやや多発生となっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、ヒゲナガアブラムシ類の発生に注意しましょう。発生の場合は天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

ハダニ類 発生量: 平年並



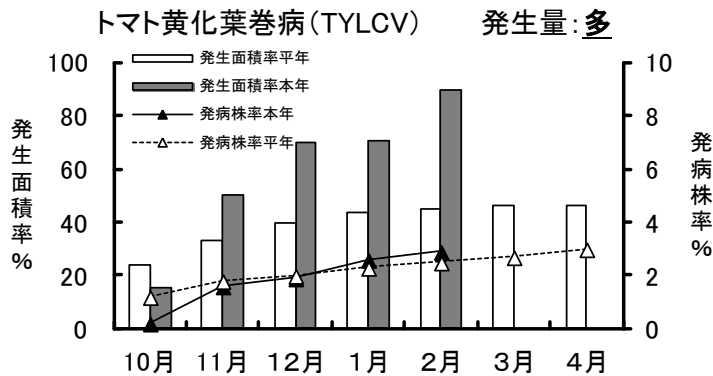
ピーマン・シシトウ(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

全体では平年並みの発生ですが、県東部では多発傾向となっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。また、防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

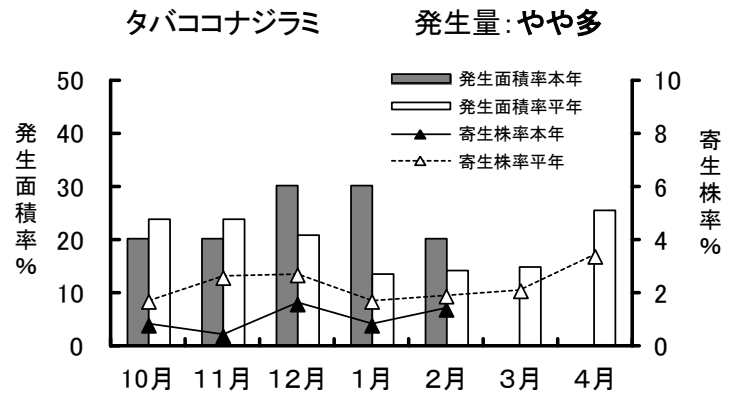
平成26年3月5日

高知県病害虫発生予察2月月報及び予報第12号(3月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成トマト(中央部)

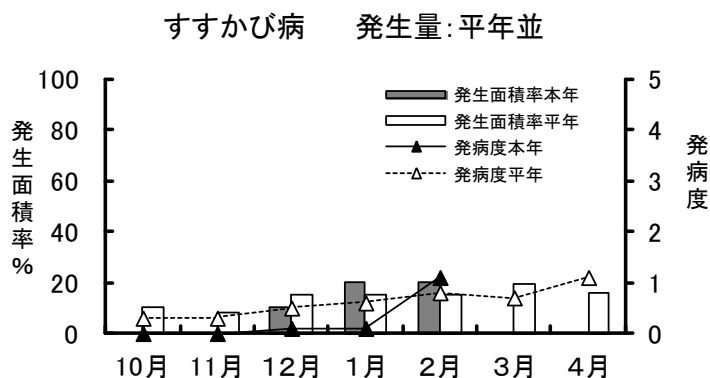


トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

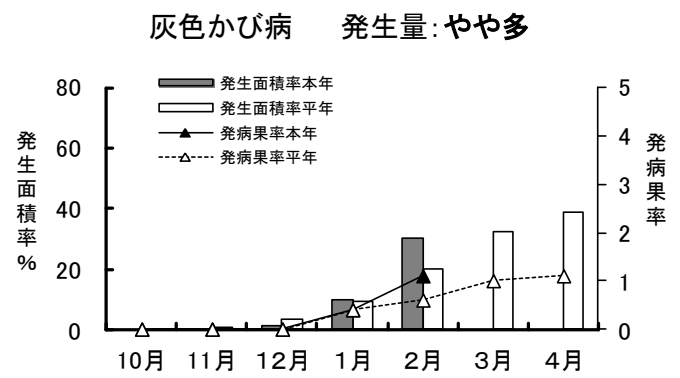


トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

黄化葉巻病は多発生となっています。媒介虫のタバココナジラミの発生面積もやや多発生となっており、発生の拡大に注意が必要です。今後は気温の上昇に伴い野外からの飛び込みが多くなる可能性がありますので、施設内での増殖にご注意ください。

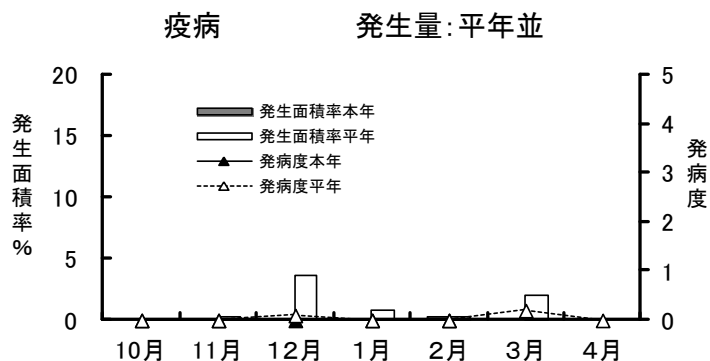


トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移



トマト(促成栽培)における灰色かび病の発生推移

すすかび病は平年並、灰色かび病はやや多発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は高く、天気は平年に比べ晴れの日が多いと見込まれ、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われませんが、多湿条件が多発の要因となることから、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に努めてください。



トマト(促成栽培)における疫病の発生推移

疫病は平年並の平年並み発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は高く、日照時間は平年並みか多いと見込まれ、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われませんが、急な冷え込みなどにより、ハウス内湿度が高くなると疫病が助長されますので、温度管理や湿度管理を十分に行い、適正な温湿度管理に努めてください。